



繁殖牛の暑熱対策に！

今年も全国的に猛暑の予報が発表されています。

そこで「海藻粉末+ニンニク+ビタミン」の混合飼料、『アルギスタミナ』をご紹介します。

牛用混合飼料 (A飼料)



アルギスタミナ



全国の和牛繁殖産地において話題を呼んでいる『アルギスタミナ』

2013年5月29日付の日本農業新聞に広告が掲載されました。

各地で評価の高まる『アルギスタミナ』をぜひこの機会にどうぞ。

「海藻十二ンニク十ビタミン」で暑さに負けない牛づくりに

牛用混合飼料

アルギスタミナ

神協産業(株)

今年もまた暑い夏が予想されます。屋内の牛群は、さまざまな暑熱の対策を行っていても、暑さから食欲が低下し、栄養・微量養素不足から枝肉重量の低下・繁殖障害という悪循環に陥ることが毎年繰り返されています。

「アルギスタミナ」は、海藻粉末にゼオライト、ニク粉末、ビタミンA・D₃・Eなどを混合した牛用混合飼料です。与したところ、餌食いもよく順調な発育となっている。

今年、夏をしっかりと乗り切る最大のポイント、牛繁殖産地で「アルギスタミナ」の利用者が増え、牛のストレスを軽減する。昨年、本紙面で紹介した後から、全国各地の牛繁殖産地で「アルギスタミナ」の利用者が増え、力月前から種が付くまで

ています。各地の事例をご紹介します。沖縄県での事例

■宮崎県での事例
昨年の広告を見て給与を開始。夏場であっても発情がしっかりと確認でき、種付けが良かったため、それ以降継続して利用している。子牛にも給与したところ、餌食いもよく順調な発育となっている。

「アルギスタミナ」を1日当たり50g給与。繁殖牛の頭数に変化はない。昨年春の分娩頭数に比べ、今年春の分娩予定年は前年比約120%アップとなり、目標である1年1産に近づく結果となっている。

■兵庫県の事例
昨年5月より「アルギスタミナ」を暑熱対策として給与。酷暑の8月にあっては発情が明瞭で、出産後40日で種が付き、妊娠確認ができた。空胎日数の大幅短縮でコストの削減につながっている。

「アルギスタミナ」を継続利用している。1年間使用した生産者の皆さんの評価としては、「良い発情が来た」「分娩間隔が短縮している」「1回で種付けができる牛が増え、コスト削減につながっている」など、喜びの声が届いています。

牛用混合飼料(A飼料)



アルギスタミナ

■長野県の事例
昨年の広告を見てから、県内での利用が徐々に広まり、1年足らずで多くの繁殖農家が新規に「アルギスタミナ」を利用する。

神協産業(株)

〒742-1502

山口県熊毛郡田布施町
大字波野962番地の1

TEL 0820(52)1011

FAX 0820(52)4004

http://www.shinkyō-ind.co.jp

カタログ請求・お問い合わせは左記まで。